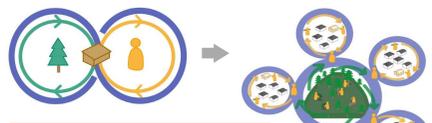


京北の木材で大工の卵達と作る 磨き丸太方杖のある木造倉庫

京北の林業施策のための資材倉庫と車庫の計画である。2023年初頭から計画され同年秋に着工、2024年秋竣工を目指して工事を行っている。
 本計画はただ倉庫を造るだけでなく、地域の木材を媒介とした「人」による山とまちでの価値と文化の循環、京北の景観、また将来京北の木材を使うであろう大工の卵たちへの意欲と技術の継承も大きな目的として計画された。
 材料は木材倉庫に長く残る、寸法の大きな角材を有効利用している。また施工は地元の大工棟梁の工務店が請負、大工工事のサポートとして京都市内の建築専門学校大工チームが棟梁や教員の指導の下、手刻みから建て方、造作工事を行っている。設計においては、上記の材料と職方、学生大工チームの編成を考慮し、多種寸法に

対応でき、比較的簡易な加工で行える「**挟み梁工法**」を採用した。(下図参照) 車庫や資材倉庫の入り口がある西側は大きな開口が並ぶため、雨除けの庇を長く出している。この庇を支える方杖が間口に印象的に7本並ぶ。この方杖はまちへの表情となり、また強度、対候性も必要な重要部の為、「杉の磨き丸太」を採用した。
 この杉磨き丸太の皮むき、磨き作業はクライアント職員が総務で行った。また難易度の高い丸太躯体の加工は学生チームが大苦戦をしながら削り組み上げている。この磨き丸太方杖のファサードが地域の景観として馴染み、地元を鼓舞しつつ林業と大工をはじめ山にかかわる人々を応援する存在となる事を期待している。



■人が循環させる山の価値と木の技術と文化
 今回の倉庫造りで、木材・大工技術を紹介して関わる人々により山からまちへの価値と文化の循環・継承の小さなきっかけが生まれ、その様な取組を増やす事で、持続する大きな流れとしていきたい。



■建築概要

建築面積	157.83㎡
床面積	
1階床面積	147.5㎡
2階床面積	99.5㎡
合計	247.5㎡
構造・規模	木造2階建
用途	車庫・倉庫
仕上	
外壁	杉板張り
屋根	杉板張り

